



たんぽぽの家

障害のある人たちの表現活動を社会
に発信する市民団体(1973～)

設立当初より、障害のある人たちの芸術文化
をととした社会変革をテーマに活動を展開。
展覧会、舞台公演、セミナーや出版、情報発
信を行っている。国内外のネットワークを通じ
て教育機関、行政、企業などとの協働したプ
ロジェクトを実施。



2023年には活動をはじめて50年を記念する展覧会、
フォーラム等を実施

HANA

障害のある人の総合的なアートセンター
(2004～)

Art, Work, Communication をキーワードに、
障害のある人がそれぞれの個性を発揮できる環境
整備、サポート体制などの仕組みづくりをおこな
っている。現在約60人のメンバーが通う。





障害のある人とあたらしい仕事、働き方を提案する（2016～）

奈良県香芝市にオープン。アート・デザイン・ビジネスをテーマに、障害のある人とデザイナー、クリエイター、企業と協働。新しい仕事やはたらかき方の提案を実践している。つくる、はたらく、発信するが一体となった場。





わたぼうしムーブメント(1975～)

詩と音楽をとおして障害のある人の存在や思いを社会に伝える

- 日本における芸術文化による社会運動のさきがけ
- アジア太平洋へのネットワークの展開



近畿二府四県の福祉、地域をつなぐアートプロジェクトの展開



エイブル・アート・ムーブメント(1995～)

障害のある人の芸術文化を新しい視座で捉えなおす市民芸術運動

○障害とアートに関するゆるやかなネットワークの形成

○企業のメセナ活動や市民団体と連携した地域の文化的発展



企業との連携によるものづくり

Good Job！プロジェクト(2013～)

障害のある人と、働く選択肢を広げ、あたらしいしごとについて考え実践する

- デジタル工作機械をつかったものづくり
- 企業と協働した仕事づくり



デジタル工作機械を活用

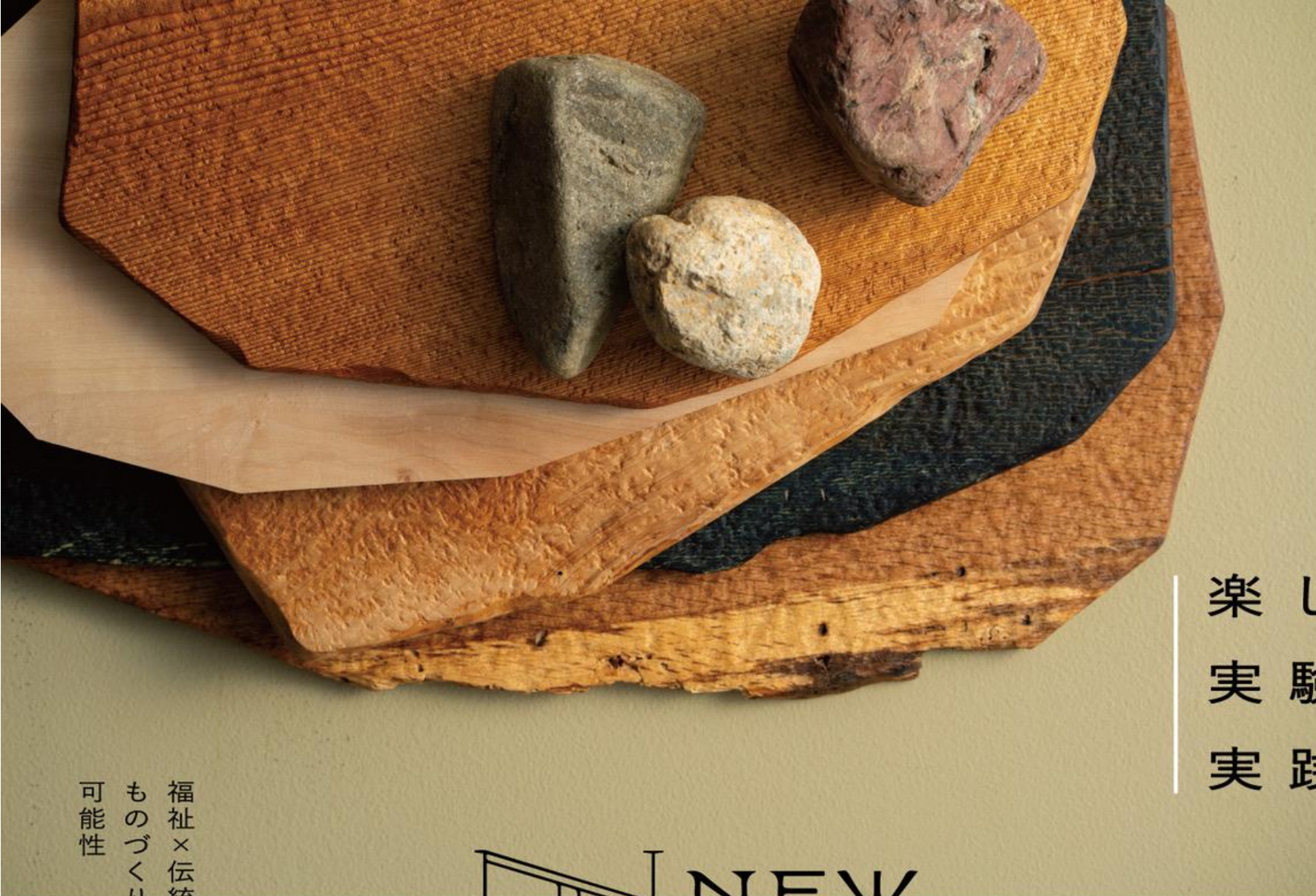


障害のある人と、作品を
商品や広報に使いたい企
業、クリエイターをつな
げる中間支援団体

ABLE ART COMPANY

著作権ビジネスによる仕事づくり





楽しい
実験と
実践

地域につたわる素材をつ
かい、作り手、使い手の
関係を変え、ものづくり
をとしてあたらしい生活
提案をするプロジェクト

福祉×伝統の
ものづくりの
可能性

NEW
TRADITIONAL

NEW TRADITIONAL

福祉と伝統のものづくりの可能性





WAVE:なみのダンスとMR



とけていくテクノロジーの縁結び

Art for Well-being

高齢化や身体の重度化に寄り添う表現活動の模索

何歳になっても、身体がどんな状況になっても表現を続けたい、という人たちと、テクノロジーをつかって表現の可能性を探るプロジェクト

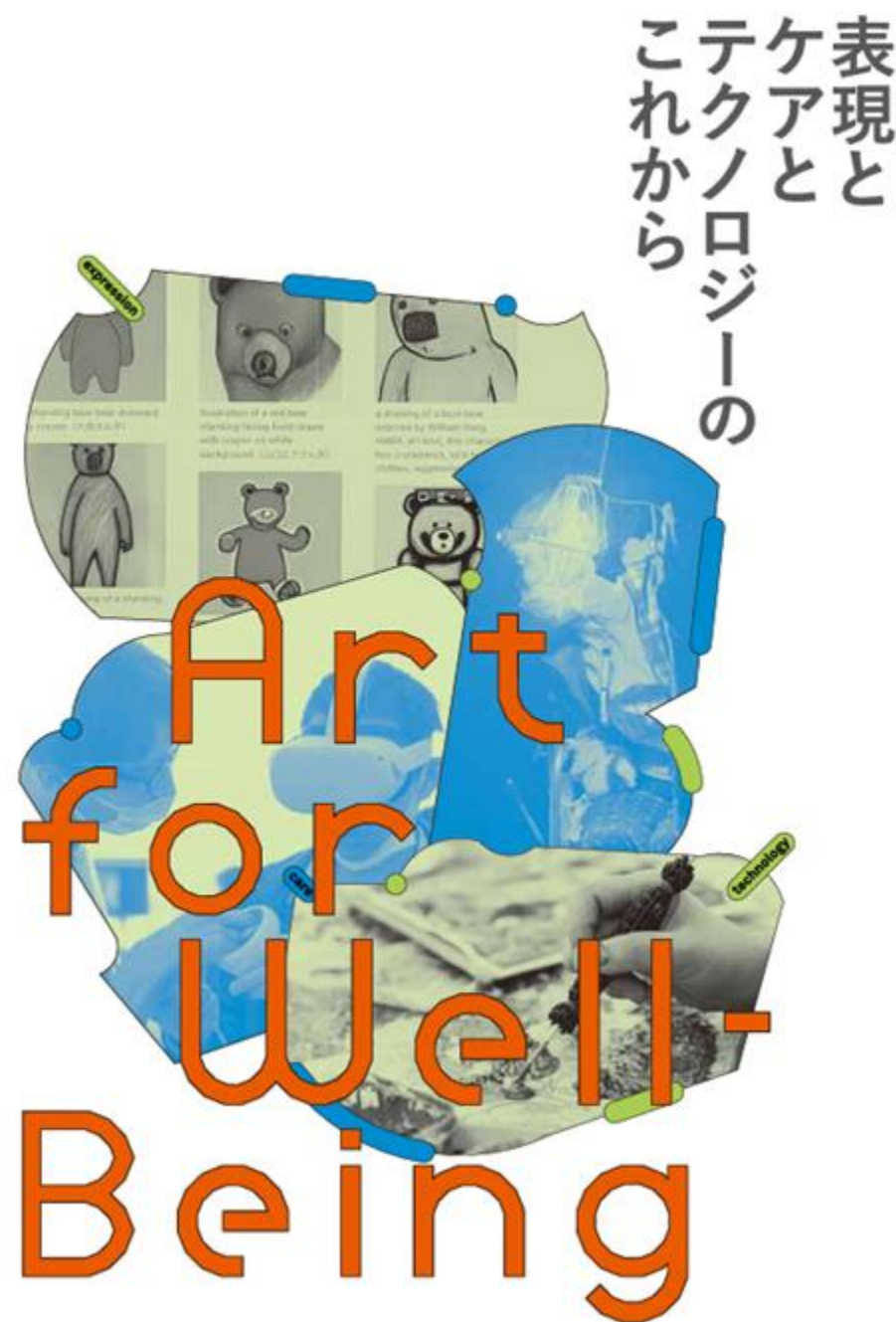


クリエイターと障害のある人が協働しNFT
アートを作成、販売、また、オンラインコ
ミュニティにてリアルとヴァーチャルで交
流をつづけている。

Good Job ! Digital Fabyory

デジタルのものづくりとコミュニティづくり





<https://art-well-being.site/>



Report 2024年02月08日

【ワークショップレポート】新井英夫×佐久間新×寛康明：ダンス×テクノロジー＝鑑賞の可能性を探る試み | 2023年11月23日



Report 2023年10月27日

【レポート】セミナー&ワークショップ「Art for Well-being 表現とケアとテクノロジー」| 2023年8月19日 大阪



Archive 2023年03月13日

展覧会 Art for Well-being 表現とケアとテクノロジーのこれから：展示内容と関連資料



Research 2023年03月01日

テクノロジーは「障害は世界を捉え直す視点」を人間にもたらすことはできるのか？ キュレーター・プロデューサー・田中みゆきさんインタビュー



Research 2023年12月06日

【レポート】所有や知財の観点から考える、NFTアートとその可能性：弁護士・水野祐さんによる学習会



Research 2024年02月07日

「できないことには価値がある」からはじまる。ものづくり|オリィ研究所長 宮藤オリィさんインタビュー

ArtforWell-being # 会場Q&A # Online



Research 2023年02月23日

すぐには評価のできない表現やテクノロジーも社会にひらいていく。YCAM菅沼聖さん、伊藤隆之さんインタビュー



Research 2023年01月06日

ありあまる他者への気持ち・行動を流通させる、ふるまいのテクノロジー。NTTコミュニケーション科学基礎研究所・渡邊淳司さんインタビュー



Research 2022年09月15日

テクノロジーの力で、すべての人に、表現の自由を。一般社団法人 WITH ALS 武藤将風さんインタビュー



Q 誰かと一緒に作った作品、著作権はどうなるの？

A 関わった人全員に、著作権が発生することがあります。

1 権利は誰のもの？



共同制作では、誰に権利があるんだろう？

みんなでつくった作品を展覧会やWebサイトで発表したい。その前に、共同制作における著作権が誰に生じるのかを理解しておきましょう。

複数の人が協力してつくった作品は「共同著作物」となり、利用の際は関わった人全員の合意が必要です。ただし、制作の補助にとどまる場合など、共同著作物にならないケースも。歌詞と曲が組み合わさった歌のように、複数の著作物からなる作品は「結合著作物」と呼ばれ、個別の著作権が発生します。

* 共同著作物とは、「二人以上の者が共同して創作した著作物であつて、その各人の寄与を分離して個別的に利用することができないもの」(著作権法第17条第1項第12号2)を指す。

参加型ワークショップでの共同制作

関西で活動するアーティストの鮎川奈央子さんは、参加型ワークショップを企画し、学生や障害のある人など10数名とともにオブジェを作りました。このとき、制作方法を考え、素材の準備やファンジターを行ったのは鮎川さんと奈央子です。しかし、参加者が思い思いに制作した点を考えれば、完成したオブジェは共同著作物、全員に著作権が発生すると言えます。ワークショップで共同制作した作品を展示する際に、参加者一人ひとりの名前を省略するケースはまだ少なくありません。つくり手全員へのリスペクトを示すことが大切です。



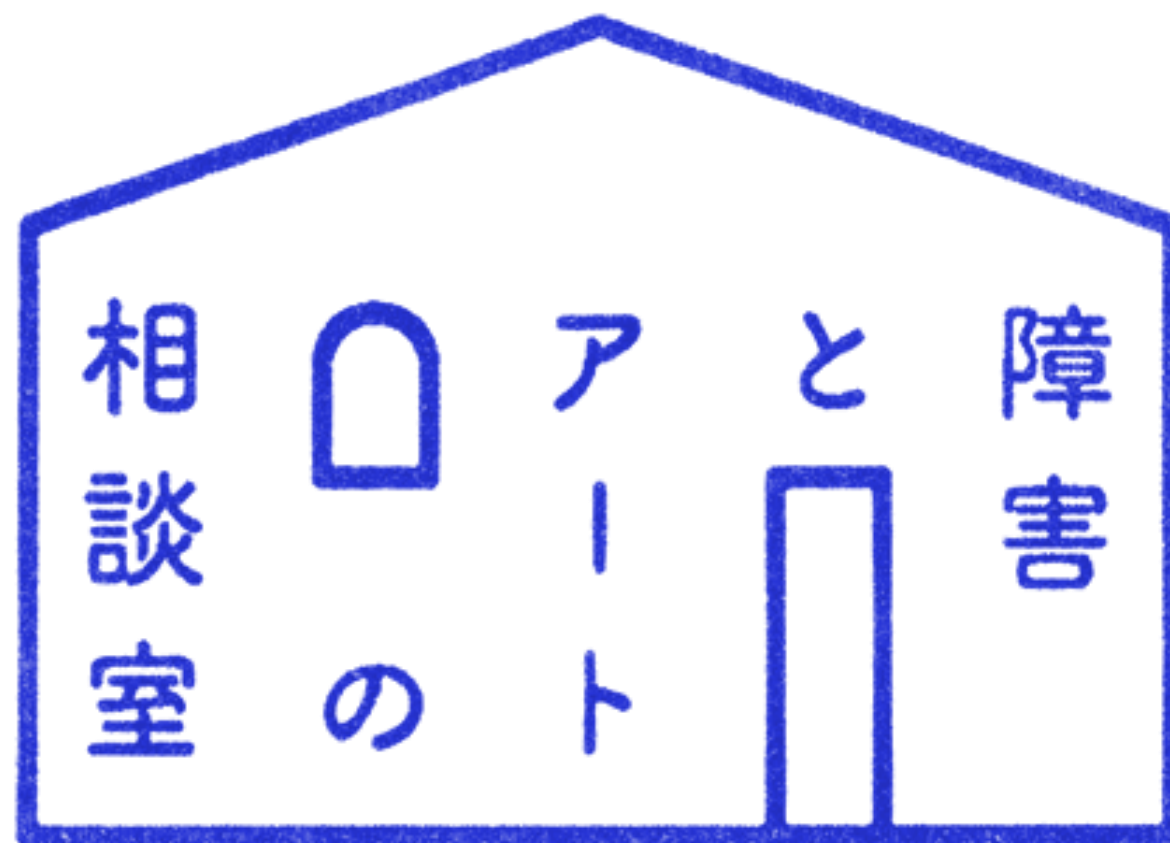
参加型ワークショップ「カラフルなまちをつくる」の制作風景



知的財産に関する権利保護の意識をもちつつ、ライセンスビジネスや作品の販売などを自ら展開していくことを後押しするためのハンドブックやゲーム、学習機会の創出

知財学習推進プロジェクト

人権の視点から学ぶ、障害のある人の表現と権利



障害とアートの相談室

障害者芸術文化活動普及支援事業

近畿圏内の障害のある人の展覧会の開催



「めぐるアートをめぐる 展」京都場／京都

障害のある人の
アートの「橋渡し」を
考えるためのセミナー



1

アートの販売を考える

白岩高子
(アトリエコーナス)
日垣雄一
(YELLOW)

作品を発掘し、アートシーンへとつなげていくために、実際に作品の販売を活発に行っている実践者を招き、アートの売買に関する取り組みを学びました。(参加者 53 名)

11月24日(土)／難波神社(大阪)



障害のある人の
アートの「橋渡し」を
考えるためのセミナー



3

アートの評価を考える

榎木野衣
(美術評論家、多摩美術大学教授)

評価と批評との違いや批評の方法についての具体的な話を聞きました。また批評家から見た障害のある人のアート活動、取り巻く状況についての意見を聞きました。(参加者 61 名)

2月7日(木)／京都場(京都)



障害のある人の
アートの「橋渡し」を
考えるためのセミナー



2

アートのアーカイブを考える

川瀬 慈
(映像人類学者、国立民族学博物館准教授)

有形、無形をとわないアートをどう発信していくか、アーカイブという考え方から、研究者の立場で表現と研究の境を行き来している実践者に聞きました。(参加者 20 名)

12月21日(金)／Good Job! センター香芝(奈良)



障害のある人の
アートの「橋渡し」を
考えるためのセミナー



4

アートにまつわる 知的財産権について考える

橋本高志
(社会福祉法人ぷろぼの)
水野 祐
(弁護士 シティライツ法律事務所)

著作権も含めた知的財産権について最新情報とともに学び、カードゲームを用いて参加者とともに知財の大切さを体感するプログラムを実施しました。(参加者 23 名)

2月13日(水)／Good Job! センター香芝(奈良)



鹿の劇場
障害のある人のパフォーマンスのショーケース公演

知らないものに出会ったとき、
これから何が起こるのか心が高鳴る。
ぐっつと身をかくして緊張する。
期待と不安、ワクワクとドキドキ。
今回上演するのは音楽×ダンスと、演劇です。
人と人が出会い、関わり合うことで生まれるもの。
トークではその出会いを深めていきます。
ぜひお越しください。

鹿の劇場
2022
出会いの一步

2022.11/23(水・祝)
13:30開場 14:00開演(16時終演予定 特演後トークあり)
会場：奈良市ならまちセンター市民ホール 〒630-8362 奈良県奈良市東寺林町38
定員：100名(要事前申込・全席自由席)
料金：一般2,000円(当日2,500円)、学生[中高生]1,000円(当日：1,500円)
※介助者1名まで・小学生以下無料
※会場では文字字幕による情報保障を予定しています
※会場での検温・手指消毒およびマスクの着用にご協力ください。発熱や風邪症状のある方はご来場をお控えください。
出演：Wa No Wa(音楽) × 森田かずよ(ダンス)、HANA PLAY(演劇)
トークゲスト：熊倉敬昭(芸術文化観光専門職大学教授)、ほか
主催：一般財団法人たんぽぽの家 | 令和4年度 障害者芸術文化活動普及支援事業(厚生労働省)





パフォーミングアーツの可能性を探る

障害のある人がかかわるパフォーミングアーツや関連するトークの動画を集めたオンラインプラットフォームの運営や、生活のなかでうまれる、名付け得ぬパフォーマンスを表彰する「S-1グランプリ」などを開催



S-1

グランプリ

日時 2024年 12月6日 金

13:30開場 14:00開演(16:40終演予定)

会場 茨木市文化・子育て複合施設 おにクル きたしんホール 定員 150名

オープンアトリエ2023

障害のある人もない人も、どなたでもアートを体験できる
創作ワークショップ。いろんな素材や方法で、いっしょに表現を楽しみましょう！

会場 平城宮跡歴史公園
平城宮いざない館・多目的室

参加費 500円
1回参加につき
(材料費含む)

日程
＜前期＞
2023年1月7日(土)/15日(日)
13:30-16:15(受付13:00-)
＜後期＞
2023年2月26日(日)
3月21日(火・祝)
13:30-16:15(受付13:00-)

対象
小学生以上、障害のある人・
ない人、どなたでもご参加い
ただけます。
※前期・後期それぞれ2回セットで参加で
きる方優先。定員に空きがある場合のみ、
単回参加も可。
※付添の方も一緒に参加いただけます
ので、申込み時にその旨お伝えください。
※プログラム内でのサポートは事務局がお
こなします。プログラム外でのサポートが
必要な場合は、介助者とご一緒に参加く
ださい。

定員
前期・後期それぞれ10名程度、
サポーター10名程度
サポーター(ボランティア)も同時募集!!
福祉施設などでアート活動を取り入れて
みたい方、興味のある方、ぜひご参加く
ださい。

申込み先
1.たんぽぽの家/担当:岡部・大井・堀川
メール:artsoudan@popo.or.jp
TEL:0742-43-7055
FAX:0742-49-5501
2.専用フォーム
<https://forms.gle/fVT6QBcm3zgUQsdE8>

募集期間
＜前期＞
2023年1月4日(水)まで
＜後期＞
2023年2月20日(月)まで

ネオ・平城京
みんなであつくる





障害のある人もない人も自由に参加できる創作ワークショップ
「オープンアトリエ」の展開

「近畿圏における障害のある人の芸術文化活動に関する調査」

実施時期：2024年6月28日～8月18日

実施目的：近畿圏内の障害のある人たちのアート活動の実態把握

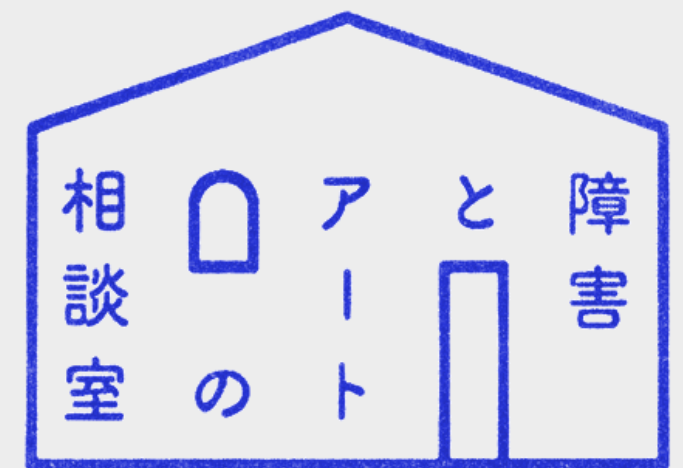
アンケート対象：

①近畿圏内（滋賀県・京都府・大阪府・奈良県・兵庫県・和歌山県）の障害者福祉サービス事業所、特別支援学校、絵画教室などのアトリエ

②近畿圏内でアート活動に関心のある障害のある人

アンケート方式：Google formによる記入式

回答数：260件（団体：223件、個人：36件）



福祉施設における芸術文化活動で求められていること

- 職員のスキルアップ（組織内でのアート活動の理解や入門編的な勉強会や体験の機会）
- 場所と人の確保（画材や創作後の作品／外部講師、アートサポーター）
- 地域での連携（他団体、企業、文化施設等）
- 効果的な情報発信（活動は始めているが、活動や作品の周知が難しいと感じている団体が多い）
- 利用者、支援者の高齢化による、アート活動へのアクセス減
- 個人で活動するアーティストの支援の強化（福祉施設に通っていない休日等も含む）

まとめ

創作の場や発表の機会は少しずつ増えている。「つくる」「つたえる」の前後にある、「環境や作品をととのえる」「表現や活動をひろめる」部分での具体的なノウハウを共有する機会が必要。異分野連携が活動継続のポイント